

「第6回 日本TRIZシンポジウム 2010」の一般発表の募集について
兼 最終原稿の提出要領

2010年2月22日 [追記: 2010. 6. 9; 7.11]

NPO法人 日本TRIZ協会

第6回 日本TRIZシンポジウム 2010

プログラム委員長 中川 徹 (大阪学院大学)

創造的な技術革新の技法「TRIZ」について、広く発表・討論・交流するために、NPO法人日本TRIZ協会が主催して、第6回 日本TRIZシンポジウム 2010 を開催いたします。つきましては、一般発表を下記のように公募いたしますので、どうぞ積極的にご応募くださいますようお願いいたします。

[注: 青字の部分は、昨年度のやり方から変えている部分、または特記部分です。ご注意ください。]

このたび、発表総計 37 件 (うち、海外 10 件) を受理し、第一次のプログラム案を編成しました。発表をお寄せ下さいました皆さまに感謝いたします。下記に記述しております要領に従い、最終原稿を提出いただき、発表のご用意をいただきたくお願いいたします。[2010. 6. 9] (追記・改訂部分は赤字)

発表 7 件を受理し、プログラムを再編し、本書を微小訂正しました。[2010. 7.11] (赤字)

記

1. 第6回 日本TRIZシンポジウム 2010 の概要

日時: 2010年 9月 9日 (木) ~ 11日 (土) (3日間)

会場: 神奈川工科大学 (神奈川県厚木市下荻野 1030、
小田急線 本厚木駅下車 (新宿から急行 1 時間)、バス約 25 分)

主催: NPO法人 日本TRIZ協会 (理事長: 林 利弘 (林技術士事務所))

目的: 創造的な技術革新の技法「TRIZ」とその関連分野での発表・討論・交流の場を提供する。
TRIZ に関して、その技術レベルの向上と普及・推進・適用のしかたの向上に資する。
日本と世界の TRIZ 関係者の交流を図り、TRIZ の理解と普及を促進する。

ねらい: 発表および参加を広く (国内・海外から) 公募し、公開の会とする。
TRIZ のより深く広い理解を作るとともに、企業や大学などにおける実践を推進する。
特に、中小企業を含めた企業ユーザの底辺を広げ、また学校教育などへ導入を図る。
基本的には国内向け(全国的)であるが、部分的に (できるだけ多く) 国際的なものにする。
会期中にNPO法人 日本TRIZ協会の総会を開く。

重点テーマ: 主題 「新分野適用と普及拡大を目指して」

[主題決定: 2010. 4. 6]

- (1) TRIZ の技法の発展とその技術課題適用事例
- (2) TRIZ の適用と推進のしかた、特に技術開発の諸段階での効果的適用法
- (3) 日本および世界における TRIZ 推進の状況

公式言語: 日本語 および 英語

オーラルの発表は、和文と英文のスライドを並行投影することを基本とする。

ただし、一部は和文スライドのみ投影するオーラル発表もある。

発表には通訳（同時通訳／逐次通訳）なし。

討論時には、和英スライド同時投影のオーラル発表について通訳サポートあり。

[注: 海外発表者スライドの和訳、国内発表者スライドの英訳、および当日の
討論時の通訳をして下さるボランティアの方を求めています。

していただける方がありましたら、事務局までご連絡ください。]

当日資料は、概要集（日本人向けと海外参加者向け）と USB 論文集（和・英両方）を
全員に配付する。印刷の論文集は、有料申込み制。

一般発表の発表形態（予定）:

オーラル発表: 基本発表時間: 発表 30 分 + 質疑応答 10 分。

通常ダブルトラック(2会場並行)

ポスター発表: 会場内のコーナーに分散して、複数同時並行で掲示・発表する。

比較的少人数での自由な質疑応答可能。全日程掲出の予定。

ポスター紹介セッションを設け、各人 3 分で概要紹介する。

ポスター発表の時間は(紹介を除くと) 70 分程度。[2010. 7.11]

主催者企画（基調講演、チュートリアル、テーマ講演など）: 別途準備中です。

基調講演: Nikolai Khomenko 氏（カナダ）「OTSM の全体像」(仮題) [確定]

Mahmoud Karimi 氏（イラン）「イランにおける TRIZ の社会普及活動」[確定]

チュートリアル: 初心者のための TRIZ の基本（全般的） [確定]

テーマ講演 (5 件): 目的別の TRIZ の活用方法について、初心者にも経験者にも分かるように
[確定]

(基調講演詳細別紙参照。別途公表しています。)

2. 一般発表（オーラル発表とポスター発表を含む）の募集テーマ

上記のシンポジウムの趣旨に沿った、オリジナルな研究・活動報告を募集します。

主要テーマ:

- 商品企画のための TRIZ の活用
- 問題解決のための TRIZ の活用
- リスク回避のための TRIZ の活用
- ソフトウェア、IT のための TRIZ の活用
- ビジネス分野のための TRIZ の活用
- 知的財産の創造・強化のための TRIZ の活用

- 企業における TRIZ の推進、マネジャのための TRIZ 理解
- 学校・大学・社会における TRIZ をベースにした教育
- TRIZ の方法論の展開および関連諸技法との統合的利用
- その他

テーマ範囲： 下記一覧のような範囲で広く捉えて下さい。

技法など	適用目的	適用分野	適用場面
TRIZ TRIZからの派生・発展 創造性技法、 アイデア生成法、 問題抽出技法、 問題解決技法、 将来予測技法、 技術革新技法・運動、 技術管理、知識管理、 研究開発技法 知財生成・知財分析、 技術の実装技法、 問題解決支援システム、 日本独自の諸方法 など	技術予測・市場予測、 問題抽出、 商品企画開発、 技術課題の解決、 技術コンセプトの生成、 品質向上、 コスト・納期削減、 エコシステム、 知財発掘、知財強化、 ビジネスモデルの創成、 技法の検証、 創造性教育・訓練 など	一般技術分野 機械・機構系、 電気・電子系、 システム系、 ソフトウェア系、 材料系、 化学系、 生物系、 ビジネス系、 社会問題、 身近な問題、 教育 など	大学等教育、 技術者教育、 普及・啓蒙、 適用試行、 グループ活動、 実地適用、 推進組織化、 推進活動、 R&D 全般、 管理者教育、 中小企業普及、 初等中等教育、 など

3. 一般発表の申込み手続きについて（オーラル発表とポスター発表ともに、すべて共通）

3.1 申込みに際して提出すべきもの

電子メールにて、下記の書式 3 件を提出下さい。

0. 申込みメール: 「発表申込み」をサブジェクトに明記し、下記の 3 件の書式を添付下さい。

A. 発表申込み書: 書式 A による。MS Word 97-2003。テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者（所属）、著者代表連絡先、

関連テーマ分野、キーワード

希望発表形態（一般発表のみ、一般発表優先、ポスター発表優先、ポスター発表のみ）、
英訳の有無／可能性／英訳支援希望の記述、著作権の譲渡に関する確認事項。

B. 和文概要: 書式 B による。MS Word 97-2003。テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者（所属）(共著者を含む)、

200 字程度の概要、説明文 (図表も可)、全体で A4 の 1 頁。

(注: 題目・著者・概要、は事前プログラムに掲載する。

説明文はプログラムの審査・編成に用い、開催時に公表する。)

C. 英文概要: 書式 C による。MS Word 97-2003。テンプレートを Web に掲載。

英文の発表題目、著者（所属）(共著者を含む)、英文概要。全体で A4 半頁。

(注: 英文での事前プログラムに掲載する。)

3.2 発表に関する著作権の扱いについて

(再度ご確認ください [2010. 6. 9])

前提事項: 発表申込みおよび発表資料の提出時点において、発表者はその内容が他者の著作権などを侵害していないことを確認し、また社内の発表許可などを経ているものとします。

発表時期: 発表資料の公表時点はシンポジウム初日 2010年 9月 9日とします。

著作権: 発表資料の著作権は、著作者本人にあるものとします。よって、著者はTRIZシンポジウムの後に、自分が適当と考える方法で、他に投稿・発表などができます。

著作権の譲渡: 発表者は、以下の事項に対して「NPO法人日本TRIZ協会」に、非排他的な権利を譲渡するものとします。

- ・ 「第6回 日本TRIZシンポジウム 2010」での当日配付の印刷資料に印刷し、配付すること。
- ・ 「第6回 日本TRIZシンポジウム 2010」で、当日配付のUSBメモリ媒体資料に収録し、配付すること。
- ・ また、上記の印刷資料およびUSBメモリ媒体資料の複製を後日配付・販売すること。
- ・ 日本TRIZ協会が適切と考えるWebサイト(複数可)で後日公開あるいは限定開示すること。
- ・ 発表状況の(主催者による)スナップ写真撮影を許可し、それらを日本TRIZ協会が適切と考える方法で、掲載、配付、案内資料などに使うこと。
[注: 主催者指定の者以外(一般参加者など)による、投影画面の撮影を禁止します。また、録音も禁止します。これらは発表者の自由な発表を守る処置です。] [2010. 6. 9]

3.3 発表申込みの提出

提出・問い合わせ先: プログラム委員会: 委員長: 中川 徹 (大阪学院大学)
副委員長: 小西 慶久

送付方法: 電子メールで文書添付 (MS Word)

宛て先: 電子メールアドレス: sympo@triz-japan.org

申込み締め切り: 2010年 5月 17日(月) 18:00 延長 5月 24日(月) 18:00。[締切済みです]

- [注: すでに締め切り済みですが、つぎの条件で極めて限定した数のものを受け付けます。]
- (a) 正規の申込み書式に従って、「概要」を 6月 30日(水) 24:00 までに提出のこと。
 - (b) 最終原稿を正規締め切り 7月 26日(月)18:00 までに提出すること。
 - (c) 発表枠は基本的にポスターとするが、限定的にオーラルも受け付ける。
 - (d) 受理の可否、発表枠の種類は事務局の判断による。7月初めに連絡する。
 - (e) なお、「ポジションペーパー」(全1頁)については、この発表募集とは別枠で扱う。

これは、海外参加者のうち非発表者でビザ申請を必要とする人が提出するもの、
および、グループ討論のための資料を想定している。
希望者は sympo@triz-japan.org (担当:中川) まで問い合わせ下さい。(追記:2010. 6. 9)

[注: 上記の追加発表募集を締め切りました。(追記: 2010. 7.11)]

4. プログラムの決定と著者への通知

採否決定: 発表の採否とプログラム案の決定は、

5月下旬～6月上旬に日本TRIZ協会プログラム編成会議および同運営会議にて行います。

オーラル発表とポスター発表の別は、申込み時の希望を考慮しつつ、
プログラム編成会議で調整・決定いたします。

申込み時の第一希望とは異なる場合もありますが、ご了承下さい。

発表申込みについて、不採用の判断をする場合もあります。

また、特に、申込みが多くなった場合には、運営上、数を制限させていただく
ことがあります。

著者への通知: 発表申込みの受理は、受け付け後 3 日以内に個別に連絡します。

メール送付から 3 日過ぎてもプログラム委員会から返信メールが届かない
場合には、お手数ですが再送付下さい。

発表の採否およびプログラム案を、6月14日頃に通知します。

採用された著者は指示に従って、原稿を次項のように準備下さい。

プログラムの発表: 編成したプログラム案を TRIZ 協会の公式ホームページ他に掲載し、
参加者募集を行います(6月14日頃)。和文と英文を同時掲載します。

この段階で、発表の題名、著者(所属)、概要 を公表します。

(和文概要につけた説明文の部分は、この段階では公表しません。)

5. 発表の形態と論文集等の作成の計画について (最終原稿提出のための予備知識)

詳細の一覧表は別紙を参照下さい。

5.1 オーラル発表の実施形態

- ・ 発表は (日本人の場合には標準的に) 日本語。(海外参加者は英語で発表)
- ・ 日本語スライドを主画面に投影し、同時に副画面に英文スライドを投影する。[これが基本]
日本語スライドは発表者が操作し、英文スライドは追従して事務局が操作する。
- ・ なお、日本語スライドだけを投影するオーラル発表をプログラム編成時に認めることがある。
- ・ 発表自体の通訳 (英語への通訳) は行わない。
討論については、スライドの和英並行投影の発表に限って、双方向に逐次通訳する。
- ・ 発表 30 分 + 討論 10 分とする。【「テーマ講演」は、発表 45 分 + 討論 15 分】
- ・ 通常 ダブルトラック (2 会場並行)。[発表数が多い場合には、3 会場並行の場合もある。]

5.2 ポスター発表の実施形態

(a) ポスターの掲出作業

- ・ 各自に模造紙 2 枚（縦型で横に並べる）のスペースが与えられる。
これを会場内の指定された壁面または移動式パネルなどに貼り出す。
- ・ 和文と英文の両方でポスターを掲示する場合には、最大 4 枚分のスペースとする。
[注: ポスター発表では、日本語のポスターライドだけでもよい。]
和・英両方で掲示すること希望する場合には、最終原稿提出締切時にその旨申請すること。
- ・ この模造紙スペースに、各自がプリントして持参してきたスライドを貼り出す。
A4（または B4）にプリントしたスライドは 8 枚／模造紙 貼れる。十分大きな字にすること。
- ・ 掲出は基本的に初日午前中に各自が作業して行き、全日程掲出しておく。
模造紙、糊、セロテープ、マジックインキなどは事務局が用意する。

(b) 「ポスター紹介」セッションでの発表

- ・ 各ポスターセッションに対して、その「紹介」セッションを持ち、全体会場で話す。
- ・ 紹介セッションでは、各自 3 分間で簡単な紹介を行う。（全体で 25 分未満の予定）
- ・ この紹介では、スライド 2～4 枚（だけ）を使う。**和文・英文スライドを同時投影する。**

(c) ポスターセッションでの発表と討論

- ・ 発表者は各自指定された壁面/場所で、ポスターの説明を行う。複数件（6～8 程度）の同時並行。
- ・ 参加者は、それぞれに選択したポスターを順次訪問する。
- ・ **全体時間は（ポスター紹介セッションを含めて）、~~80分程度~~ 100 分に設定。[2010. 7.11]**
- ・ 初回の説明と討論を 20 分で一斉に区切り、2 回目の説明を開始する。
それ以降は臨機応変で随時に発表と討論を行う。（なお、この詳細は今後変更することがある。）
- ・ 比較的少人数でのインタラクティブな発表と討論を行うことが趣旨である。

5.3 Proceedings (論文集) (当日の印刷配付物、USB 媒体配付物、後日の Web 掲載)

(1) 概要印刷物 (当日全員配付): 各発表 1 ページの概要と説明文

日本人向け: 国内発表は和文。海外発表は 英文。

海外参加者向け: 国内発表は、あれば英訳、なければ和文。海外発表は英文。

(2) USB メモリ媒体論文集 (当日全員配付): 各発表の全提出物・翻訳作成物 [*印は有る場合のみ]

国内発表: 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*、概要(英)、スライド(英)*、論文(英)*

海外発表: 概要(和)*、スライド(和)*、論文(和)*、概要(英)、スライド(英)、論文(英)*

[注: すべて PDF 形式とする。改変禁止。他人へのファイルコピー禁止とする。]

[注: 今回の会場には、各デスクに電源とインターネット端子があります。]

(3) 印刷論文集 (有料申込み制、当日配付): 上記(2)の一部 [*印は有る場合のみ]

日本人向け: 国内発表: 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*

海外発表: 概要(英)、スライド(英)*、論文(英)*、スライド(和)*、論文(和)*

海外参加者向け: 国内発表: 概要(英)、スライド(英)* [なければスライド(和)]、論文(英)*

海外発表: 概要(英)、スライド(英)、論文(英)*

** 詳細は、別紙の項目一覧表を参照下さい。

(4) Web 掲載 (後日実施):

掲載対象は、上記 (2) の全体とする。PDF 形式。

TRIZ 協会が適当と考える Web サイトに掲載する。

ただし、一般公開のページと、限定開示 (TRIZ 協会会員など) のページを使い分ける。

掲載の時期は、シンポジウム終了の後の適当な時期とし、段階的な開示を考える。

[** 掲載範囲や掲載時期の詳細は検討中です。決定後改めて公表いたします。]

5.4 スライドなどの翻訳作業について

- ・ 発表の概要については、著者自身が英訳したものを提出してください。

注: 著者の提出したものに対して、事務局から推敲の助言・支援をすることがあります。

- ・ オーラル発表 (和英同時投影を希望する場合) のスライド、およびポスター紹介のスライドは、できるだけ著者が英訳下さい。

英訳が困難なときには、著者の申し出に基づき、事務局が英訳を支援するようにいたします。

(なお、著者提出の英訳が不十分で、事務局が英訳支援できない場合には、事前の調整により、和文スライドだけの投影のセッションに切り換えることがあります。)

- ・ オーラル発表で和文スライドのみの投影を申請して認められた場合には、英訳スライドは不必要です。また、事務局は英訳を行いません。
- ・ ポスター発表のスライドも、できるだけ著者が英訳くださるようお願いいたします。英訳が困難なときには、提出なしで結構です。事務局は英訳を支援できません。
- ・ 海外参加者のオーラル発表のスライド、ポスター紹介のスライドは、事務局が和訳します。海外参加者のポスター発表の掲示スライドは、事務局では和訳支援をしません。
- ・ 上記の事務局の英訳/和訳支援にご協力いただけるボランティアの方を求めています。事務局までご連絡下さい。

6. 最終原稿の提出について [注: 詳細は 6 月に連絡します。一部修正の可能性あります。]

6 月 14 日(予定)のプログラム発表の後、以下の要領で最終原稿を提出下さい。(詳細は後日指定)
最終原稿の提出物は、すべて USB メモリ媒体論文集(Proceedings) に収録します [5.3(2) 参照]。

6.1 最終原稿の提出物 (オーラル発表の場合) (「テーマ講演」も枚数制限以外は同様です)

- 0. 提出電子メール (必須): 「最終原稿提出」の趣旨を明記し、下記必要ファイルを添付下さい。

- A. 最終原稿提出書 (必須): 書式 A2 による。(発表申込み時の書式 A を修正して、後日指定します。)

発表題目、著者 (所属)、著者代表連絡先、発表形態、
英訳の有無、英訳支援希望の有無、
著作権の譲渡に関する確認事項、送付ファイル一覧。

- B. 和文概要 (必須): 書式 B による。MS Word 97-2003。書式テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、
200 字程度の概要、説明文 (Extended Abstract、図表も可)、全体で A4 の 1 頁。

- C. 英文概要 (必須): 書式 C による。MS Word 97-2003。書式テンプレートを Web に掲載。

英文の発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、英文概要、

(できれば) 説明文(Extended Abstract、図表も可) (全体で A4 1 頁)。

D. 和文スライド (必須): 書式指定なし。最大 32 枚。【「テーマ講演」は最大 48 枚】

MS PowerPoint 97-2003

当日の発表で投影する。

E. 英訳スライド (和英同時投影を希望する場合は必須):

和英同時投影セッションのとき: 全スライドの英訳版。当日の発表で同時投影する。

著者が希望する場合には、著者の申し出に基づき、事務局が英訳支援することがある。

日本語セッションのとき: 不要。

F. 和文論文 (随意): 書式 F による。A4 2 段組 最大 8 ページ。MS Word 97-2003。

(書式テンプレートを Web に掲載)

G. 英文論文 (随意): 書式 G による。A4 2 段組、最大 10 ページ。MS Word 97-2003。

【この書式は、海外発表者用書式 D と同じ】 (書式テンプレートを Web に掲載)

6.2 最終原稿の提出物 (ポスター発表の場合)

0. 提出電子メール (必須): 「最終原稿提出」の旨を明記し、下記必要ファイルを添付下さい。

A. 最終原稿提出書: 書式 A3 による。(発表申込み時の書式 A を修正して、後日指定します。)

発表題目、著者 (所属)、著者代表連絡先、発表形態、

紹介スライドの英訳の有無、英訳支援希望の有無、ポスタースライドの英訳の有無、
著作権の譲渡に関する確認事項、送付ファイル一覧。

B. 和文概要 (必須): 書式 B による。MS Word 97-2003。 書式テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、

200 字程度の概要、説明文 (Extended Abstract、図表も可)、全体で A4 の 1 頁。

C. 英文概要 (必須): 書式 C による。MS Word 97-2003。 書式テンプレートを Web に掲載。

英文の発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、英文概要、

(できれば) 説明文 (Extended Abstract、図表も可) (全体で A4 1 頁)。

D. 和文ポスタースライド (必須): 書式指定なし。最大 16 枚。MS PowerPoint 97-2003

当日の掲示発表に使い、また、Proceedings に印刷/収録する。

E. 英訳ポスタースライド(随意): 上記 D の英訳版。最大 16 枚。MS PowerPoint 97-2003

著者が英訳困難な場合には、提出なしで結構です。事務局の英訳支援はしない。

D2. 和文ポスター紹介スライド (必須): 書式指定なし。2~4 枚。MS PowerPoint 97-2003

ポスター紹介セッションでの発表に使う。

上記 D の和文ポスタースライドの中の 2~4 枚でもよい (別途作ってもよい)。

E2. 英訳ポスター紹介スライド(必須): 上記 D2 の英訳版。2~4 枚。MS PowerPoint 97-2003

ポスター紹介セッションでの発表の際に同時投影する。

著者が英訳困難な場合には、申し出に基づき、事務局が英訳を支援する。

F. 和文論文 (随意): 書式 F による。A4 2 段組 最大 8 ページ。MS Word 97-2003。
(書式テンプレートを Web に掲載)

G. 英文論文 (随意): 書式 G による。A4 2 段組、最大 10 ページ。MS Word 97-2003。
[この書式は、海外発表者用書式 D と同じ] (書式テンプレートを Web に掲載)

6.3 最終原稿の提出方法と締切

提出・問い合わせ先: プログラム委員会: 委員長: 中川 徹 (大阪学院大学)
副委員長: 小西 慶久

送付方法: 電子メールで文書ファイル添付 (MS Word または MS PowerPoint 97-2003)、

宛て先: 電子メールアドレス: sympo@triz-japan.org

注意: 上記アドレスは、中川と小西に自動転送されます。CC によるファイルの重複送付を避けてください。(当方のメールがパンクしますのので。) 添付ファイルが 10MB を越える場合には、メールで予めご連絡ください。

締め切り: 7 月 26 日 (月) 18:00

お願い: 皆さまの最終原稿の提出後に、事務局では翻訳作業・編集作業など多くの作業を極めて短期間で行う必要がありますので、上記の締切日をぜひ厳守下さい。

参加登録: 発表者の参加登録の締切日は、7 月 16 日 (金) 18:00 です。
(この日が一般参加者の早割締切です。ぜひこの早割中に登録下さい。)

注意: 以下の場合には、プログラム委員会は、その発表申込みが取り下げられたものと判断し、その発表をプログラムから削除し、Proceedings への掲載を取りやめることがあります。ご承知おき下さい。

- ・ 最終原稿が締切日までに提出されなかった場合、
- ・ 参加登録が締切日までに行われなかった場合、
- ・ シンポジウム当日に著者 (または共著者) が出席・発表できないことが明らかなる場合。

スライド作成上の注意/お願い: (2010. 6.10)

- (1) スライドにはできるだけ大きな文字を使い、一枚に詰めすぎないこと。
- (2) 海外参加者にも、スライドを見て分かるように配慮下さい。
英訳スライドを投影していますが、「しゃべり」の部分の内容は海外参加者には理解できませんので、スライドを見ただけで分かるように配慮下さい。
- (3) 印刷の論文集はモノクロにします。またこのとき、背景無しのオプションにします。よって、この条件でも明瞭になるように配色に注意下さい。

例えば、箱の中が真っ黒になってテキストがつぶれてしまわないように。
また、濃色の背景を使うときは、上記条件で作成したPDFも合わせて提出下さい。
[注: 全員に渡す USB メモリでは、カラー版ですのでこの心配はありません。
それでも、読者がモノクロで印刷して読むことを想定してください。]

7. シンポジウム当日の発表スライドとポスタースライドについて

7.1 オーラル発表

- ・事務局が、和文スライド投影用パソコンと、英文スライド投影用パソコンを用意します。
(Windows XP/Vista、MS Office 2003 搭載)
発表に特別なソフト(動画投影など)を使ったデモなどを行う場合には、発表者がパソコンを持参下さい。この場合に、デモ部分だけは和英同時投影できないことがあります。
- ・発表に使う PowerPoint ファイルを USB メモリなどで持参下さい。
発表当日の朝に各自のファイルを事務局のパソコンにインストール下さい。
事務局では念のために、著者が論文集用に提出したファイルを投影可能なように準備します。
- ・発表の際にスライドの一部を追加して発表することを、認めます。
ただし、これは一部の例外的な処置であることをご承知下さい。
(注: 提出された最終原稿はすべて、論文集(Proceedings) に収録・掲載いたします。
一部を追加して提示する場合には、当日に一部追加のスライドファイルを持参下さい。
なお、最終原稿の段階で大幅に伏せられているものは受理できません。)

7.2 ポスター発表の場合

(a) ポスター紹介の発表

- ・事務局が、和文スライド投影用パソコンと、英文スライド投影用パソコンを用意します。
- ・ポスター紹介用のスライドは、最終原稿の提出時に提出したものを 사용합니다。
事務局が予め用意しておき、多数の発表者がスムーズに発表できるようにします。
(当日の差し替えや追加はできません。)

(b) ポスター掲出用のプリント資料

- ・掲出するのに使うスライドのプリントを、当日必ず持参下さい。[要注意]
- ・このプリントが、印刷用に提出したものと(ごく)一部に異なることを認めます。
- ・プリント資料の準備とポスター掲出の作業については、5.2 節を参照下さい。

8. 準備組織と問い合わせ先

NPO法人 日本TRIZ協会: 理事長: 林 利弘(林技術士事務所)

企画委員長: 黒澤 慎輔() [2010. 7.11 更新]

第6回日本TRIZシンポジウム 実行委員長: 三原 祐治(創造性工学研究所)

同 実行委員(事務局): 堀田 政利(創造開発イニシアチブ)

同 実行委員(会場担当): 石濱 正男(神奈川工科大学)

同 プログラム委員長: 中川 徹(大阪学院大学)

同 プログラム副委員長: 小西 慶久()

同 同: 福嶋 洋次郎()

同 同: 庄内 亨(日立製作所)

同 海外参加者対応担当: 中川 徹(大阪学院大学)

同

同： 井上 淳（東芝）

問い合わせ用メールアドレス：

シンポジウム全体、参加登録関係： info@triz-japan.org

プログラムの発表関係： sympo@triz-japan.org

以上